

Green Brave

#52 Green Brave GR Supra GT

AUTOBACS SUPER GT 2024 SERIES

Round.4

FUJI GT 350km RACE

2024年8月3日(土)～4日(日) 富士スピードウェイ(静岡県小山町)

■■■ピット戦略で追い上げを狙うもトラブルにより23位■■■

第4戦のレース距離は350km。GT300のエントリー台数は27台です。予選日(土曜日)の天候は晴。95分間の公式練習は9時から行われ、野中選手が最初にコースイン。吉田選手と交代しながら、セットアップを進めます。10分間のGT300専有時間は吉田選手が担当。ベストタイムは野中選手が29周目にマークした1分38秒977で14位。GR Supraにはサクセスウェイトの上限値(50kg)が搭載され、本来のスピードを発揮できない状況です。

予選(Q1)はB組、A組の順に行われ、Green BraveはB組に出場。Q1の順位でQ2の上位組(Gr.1)と下位組(Gr.2)に振り分けられ、Q2のタイムでグリッド順が決まります。Q1のドライバーは野中選手。野中選手は4周目に1分39秒188をマークしますが、ボーダーライン上の8位。続けてアタックを行い、区間タイムを短縮しますが、コーナーで走路外にはみ出してしまい、アタックを断念。10位でQ1を終えました。Q2(Gr.2)では吉田選手が4周目に1分38秒769をマーク。野中選手のタイムを短縮しましたが、順位は3位。この結果により、今季ワーストとなる予選19位から決勝を戦うことになりました。

決勝日(日曜日)の天候も晴。チームは予選19位からトップ10を目指すためにタイヤ無交換の1ストップ作戦を立案。野中選手をスタートドライバーに起用し、レースの展開を見ながら吉田選手につなぎます。野中選手はオープニングラップで順位を上げ、18位でホームストレートを通り。上位のピットインなどにより、翌周には16位まで浮上します。野中選手は後半のスティントを担当する吉田選手のために、タイヤをマネジメントしながらの走行。ペースは良好で、14周目と17周目に直線スピードの速い2台のGT-Rを立て続けにパスすると、24周目には#5 GR86もパス。13位まで順位を上げます。27周過ぎから、ライバルが続々とピットに入るようになりますが、効率よくピットインできるタイミングを待ち、走行を継続。その間にぐんぐん順位は上がっていき、36周終了時点で同じ作戦をとるランキングトップの#2 GR86を従え、トップに立ちます。セーフティカー導入などの大きな波乱は起きず、44周目に#2 GR86がピットイン。同じブリヂストン製のタイヤを使用しており、給油とタイヤ交換を行ってピットアウト。野中選手も翌周にピットに入り、吉田選手に交代。こちらは作戦通り給油のみのタイヤ無交換でピットアウトします。

コースに復帰した吉田選手の順位は8位。狙い通りトップ10に進出しましたが、ペースは1分41秒台で、タイヤ交換を行ったライバルが吉田選手に襲いかかります。60周目に#6 フェラーリ、61周目に#2 GR86、62周目に#45 フェラーリに抜かれ、11位に後退。それでも吉田選手は一縷の望みをかけて、チェッカーを目指します。しかし64周目、後半区間を走行中に変速できないトラブルが発生し、緊急ピットイン。店舗メカニックが原因箇所の特定と復帰を試みますが、時間は刻一刻と過ぎていきます。再スタートができないまま、71周でチェッカーが振られ、GR Supraはトップから7周遅れの23位という結果に。昨年の第5戦以来の無得点となり、ランキングも大きく後退することになりました。次戦、鈴鹿サーキットでのリベンジに期待です。

決勝結果 (GT300クラス)

#52 Green Brave GR Supra GT
(吉田広樹/野中誠太)

決勝: 23位 (64周、1時間51分40秒169)
予選: 19位 (Q1 B組: 10位、Q2 Gr.2: 3位)



DRIVERS VOICE



吉田広樹 選手

(予選後) 今シーズンのレースで一番厳しい順位になりました。重さもあるので簡単な予選にはならないと思っていましたが、19番手はなかなか大変な位置だと思えます。クルマがどうこうというわけではなく、単純に重さや、他社のクルマと富士の相性、軽さで前にいかれました。自分たちがベストを出し切れたかという、もっと詰めていける部分はあったと思います。明日はいいところを探して戦うしかないかなと思います。自分たちの強みを活かして追い上げ、ランキングを争うライバルよりも前でフィニッシュしたいと思えます。

(決勝後) セクター3を走行中、2速から3速に上げる時にシフトが動かなくなってしまって。ホームストレートに戻ってきて、クラッチをきりながらトライしてみたのですが、思い通りに動かず、そのままピットに戻りました。誠太から交代してトップ10圏内で戻ったところまでは狙い通りだったのですが、なかなか甘かったですね。同じようなクルマでタイヤを交換したチームは上位に上がっていたので、今後は自分たちの戦い方を考えなければならぬと感じました。タイヤに余力はなく、帰ってきた時にタイヤを見たら結構きつかったです。



野中誠太 選手

(予選後) 予選が合算タイムではなくなったので、Q1の上位組にどうしても入りたかったのですが、走路外走行でアタックのチャンスがなくなってしまって。あれぐらい攻めないと厳しいというのはわかっていたのですが、うまくコントロールできず、最後にアタックしたライバルに抜かれてしまいました。SUPER GTのルールではウエイトが重くなり、今回のように苦しい時が来るのは仕方のないことだと思います。天気はどうなるのかはわかりませんが、変則的な形になればなるほどぼくらにとってはチャンスなので、取りこぼさないようにしたいと思えます。

(決勝後) いつも出だしが良くなかったので、ミスしないように集中してスタートしました。ブレーキング勝負やごちゃごちゃしているところでうまく順位を上げることができ、2号車との差を広げられたのは良い展開だったと思います。ペースはそれほど悪くなかったですし、燃料が軽くなってくるにつれ、クルマのバランスも良くなっていました。セオリー通りの作戦だったかなというふうに思います。2号車がタイヤを交換したという話を聞いた時は、苦しい展開になるのかなと思いましたが、その前に車両トラブルが出てしまい、悔しい結果になりました。



次戦予告

8月31日~9月1日
鈴鹿サーキット
(三重県鈴鹿市)

GT300 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	LEON PYRAMID AMG (メルセデス AMG GT3)	71周
2位	グッドスマイル初音ミク AMG (メルセデス AMG GT3)	71周
3位	リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	70周
4位	D'station Vantage GT3 (アストンマーティン ヴァンテージ GT3)	70周
5位	JLOC ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	70周
6位	METALIVE S ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	70周
23位	Green Brave GR Supra GT (トヨタ GR Supra)	64周

GT300 クラス チームランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	2	muta Racing INGING	55
2位	65	K2 R&D LEON RACING	48
3位	88	JLOC	40
4位	777	D'station Racing	37
5位	56	KONDO RACING	37
6位	4	GOODSMILE RACING&Team UKYO	37
7位	52	埼玉 Green Brave	35

PARTNERS



Driving Mobile Media Innovation

アルパインマーケティング株式会社



株式会社アルシエ



株式会社 FM NACK5



小倉クラッチ株式会社



株式会社カロッツェリアジャパン



埼玉群スリーボンド株式会社



株式会社三和



株式会社サーフェーライフ



大和ラチエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



BP カストロール株式会社



株式会社プロモーション



株式会社プロモーション



マックメカニクスツールズ株式会社



Mechanix Wear LLC



株式会社 REIZ